

# 第 15 回美しい農村環境写真コンテスト作品評

特別審査員：鏑山英次 氏（日本写真協会理事）

（撮影者：敬称略）

## 最優秀賞

### 「あそこに」



（撮影場所：我孫子市高野山 撮影者：亀谷 宏）

田植が終わったばかりの水田の片隅で、生き物を見つけた子供たちの興奮が画面から伝わってくる。子供たちの表情が水面にも映えていて、二重のインパクトで迫ってくる。的確なフレーム、シャッター・チャンスの選択と画調の美しさが完成度を高めた秀作。農業万能から生態系を見直すという時代の中で、昔ながらの生き物が蘇ってきた。作者のコメントにもあるように、子供たちがここで見つけた生き物は、大きな宝物となって大人になっても、自然環境の大切さを持ち続けて欲しい。

## 千葉県土連会長賞

### 「興味津々」



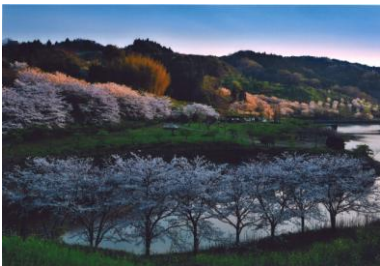
（撮影場所：大網白里町 撮影者：上出 善治）

代掻きのトラクターが近くで大きな音を立てながら、自在に動き回るのを見守る母子。少年の無心に見入る後姿が写真のキーポイントとなっていて、訴迫力のある画面に仕立て上げている。母は、この子が農業に関心を持ち、将来は後継者となって欲しい、と密かに期待を寄せているようだ。

## 特別賞

### 【千葉県農村振興技術連盟賞】

### 「夕映えの佐久間ダム」



（撮影場所：鋸南町佐久間ダム 撮影者：菅原 譲太郎）

春爛漫、桜花が水利の要でもあるダムを囲むように咲き誇っている。陽は西に傾き東岸の桜を人工照明の光のように染めながら移動していく。作者は手前の桜に陽があたっている時刻から、この位置で光の推移を見守っていた。奥行感のある構図を完成度の高い作品に活写している。

## 特別賞

### 【農地・水・環境保全向上対策賞】

### 「田植え終えて」



（撮影場所：山武市実門 撮影者：三浦 務）

田植えの作業を終えたファミリーが、土の汚れを洗っている場面のワンショット。作業の跡を振り返り、お互いの会話が弾む自然な表情が見事に描写されている。フレームの選択が巧妙でシャッターのタイミングも良く、光が全体を包み込み潤いのある雰囲気表現も秀逸。

金賞

「田んぼの”むつごろう”」



(撮影場所：君津市貞元 撮影者：河合 芳男)

田植え前の水田でどろんこ遊びに興じている子供たち。“むつごろう”のような姿態の描写は良好だが、子供たちの顔の表情が暗くて読みとり難いのが惜しい。プリントのコントラストを少し弱めたほうが良い。

銀賞

「きれいになって」



(撮影場所：市原市深城 撮影者：関口 英雄)

大根の選別作業。両サイドに箱が並んでいる所をみると、ここから出荷されるのだろう。室内の光源の下で、ややグリーン色に染まっているが、露光値は程よく場内の雰囲気を描いている。断って撮影したと付記されている。どんな場面でも他人の肖像に配慮が必要です。

「老いても頑張る」



(撮影場所：八街市 撮影者：齋藤 光生)

落花生畑でのポッチの積み上げ作業。腰を伸ばしながらお爺さんもお婆さんも仕事に精を出しているスナップ。構図が平面過ぎるので、少し右方から撮ると遠近感が描写されて、インパクトが強くなる。

銅賞

「お田植祭を終えて」



(撮影場所：香取市香取神宮 撮影者：小栗山 秀男)

香取神宮での田植え式を終えて、鮮やかな衣装の一行が帰路につく。折しも杉木立の中に開花したヤマザクラが見送っているようだ。待ち構えていて、狙うツボを心得た作品となっている。

「虫おくりびと」

(撮影場所：九十九里町 撮影者：山下 一士)



農薬の無い時代、“虫おくり”の祭事は日本列島の至る所で行われた。この地では45年ぶりに伝統行事として復活させた。風上からの描写が雰囲気を描くのに成功した。

「刈り入れの頃」

(撮影場所：鴨川市北風原 撮影者：高野 春男)



房総は山々と谷が連なり、僅かに開けた棚田での刈り入れ。小さな田んぼも大切にしている。空の雲は初秋の季節感を漂わせ、右方の木立をフレームしたのが良い。

佳作

「小戸の初午」



(撮影場所：白浜町小戸 撮影者：高橋 武彦)

南房総市小戸での、三年に一度の初午祭りで、衣装を纏った子供たちがリズムに合わせて踊っている。タイミングもアングルも巧に捉え、行事の記録・伝承を果たしている。

「稲刈りの頃」



(撮影場所：香取市 撮影者：小阪 欽哉)

日本列島で夏に子育てを終えたアマサギ（渡り鳥）の群れが、稲刈りの落穂を拾って南帰のためのエネルギーを蓄えている。並列の構図の中に人影が巧妙に描写されている労作。

「黎明の輝き」



(撮影場所：八街市文違 撮影者：牛込 金次)

昨夜来の激しかった風雨の爪跡を物語っている麦畑が、晴れ上がった早朝の光で輝いている。後方左は鎮守の森か…？自然現象のたたずまいが見事に活写されている。

「お手伝い」



(撮影場所：南房総市吉沢 撮影者：瀧口 和男)

稲刈りに三人の子女がお手伝い。作者には赤い手袋が印象的だった。わが身に引き換え、三人姉妹の賑やかさに思いを馳せる。自然な表情が巧みに描写されている。

「ハナトラノオの咲く頃」



(撮影場所：鴨川市大山千枚田 撮影者：茅野 一雄)

大山千枚田の夏。盛夏を告げるハナトラノオが咲き誇っている。炎天下で人々は畦草取りの作業も。空は夏雲が流れ、実りの秋を迎えようとしている季節感の表現が良い。

「初めての田植え」



(撮影場所：鴨川市釜沼 撮影者：菅原 康世)

泥に塗れながら田植えする幼児。なにか魅了すものが子供心を捉えたのだろう。田植えが進行する区切られた水面で一人、苗を無心に植えるフレミングが功を奏している。

「初夏の千枚田」

(撮影場所：鴨川市 撮影者：山口 翔)



森と花と棚田と若者。緑が支配する千枚田を見下ろす若者二人のポーズはシンメトリカル。発想がユニーク、演出とはいえ収まりの良い作品。新鮮な感覚を評価したい。

「菜の花と散るがいい」

(撮影場所：鴨川市 撮影者：川名 舞)



いかにも若者が発想したユニークな画面に思わず笑みが浮かぶ。もう少し上部空間を入れると印象として強くなる。自由な発想と演出で写真が変わる例として評価したい。

「おかあさん お玉じゃくしみつけたよ。」

(撮影場所：君津市小櫃公民館前 撮影者：常住 幸太郎)



田植えを終えたばかりの田に早くも蛙の子育てが始まり、母子がお玉じゃくしを発見したようだ。水田を区切る斜線が奥行感を描き出し、初夏の農の風景として印象的だ。